

2022年3月25日

地元企業への「むさしの資本性劣後ローン」の取扱いについて ～コロナ禍における長期的・継続的な取引先支援～

武蔵野銀行（頭取 長堀 和正）では、2022年3月25日（金）、株式会社インターパック（川口市、代表取締役社長 古鎌 昭博）に対し、「むさしの資本性劣後ローン」^注を取扱いいたしましたので、お知らせします。

「むさしの資本性劣後ローン」は、コロナ禍における企業の財務基盤安定化を図り、事業の維持拡大に貢献する資金調達手法として、2021年3月に創設されたもので、本件が第1号の取扱いとなります。

株式会社インターパックは、食品メーカーや製紙メーカーなどを取引先とし、包装用機械の設計から製造、販売まで自社で一貫した体制を確立している地元企業です。ウィズコロナ・アフターコロナの環境下において、同社は、今回の資本性劣後ローン活用により、現在の健全な財務基盤に加えて、より一層の基盤強化を図っていきます。

当行では、今後も引き続き地元企業の皆さまに寄り添い、その多様な経営課題の解決に向け取り組んでまいります。

注 むさしの資本性劣後ローンの特徴

- ・一定の条件を満たすと自己資本と見なすことができる借入金で、無担保、無保証人での資金調達が可能です。
- ・期限一括返済の返済条件で、コロナ禍において中長期的な視点での財務基盤安定化を図ることができます。

《企業概要》

| | |
|----------|--|
| 企業名 | 株式会社インターパック |
| 代表者 | 代表取締役社長 古鎌 昭博 |
| 所在地 | 埼玉県川口市上青木西1-13-28 |
| 業種 | 包装用機械の設計・製造・販売 |
| おおよぶ事業内容 | 食品メーカー、製紙メーカーなどを取引先とし、包装用機械の設計から製造、販売まで自社で一貫した体制を確立。「究極に挑戦し、新しい価値を作る」経営理念のもと、スピードと提案力でお客様のお悩みを解決し、お客様との信頼を深めている。 |

《資本性劣後ローンの概要》

| | |
|------|--|
| 融資額 | 100百万円 |
| 期間 | 10年 |
| 資金使途 | 運転資金 |
| 借入目的 | 新型コロナウイルスの先行きが不透明ななか、将来を見据えた財務基盤の一層の強化を図る。 |

以上

報道機関からのお問い合わせ先
ソリューション営業部 コンサルティング営業室 坂本 芳文 小笠原 知行
TEL (048) 641 - 6111 (代)